

---

[成果情報名] キウイフルーツの台木として活用できる福岡県在来シマサルナシ

[要約] キウイフルーツの台木として選定した福岡県在来シマサルナシは、改植ほ場において枯死することなく栽培可能で、慣行台木より高い耐乾性を有する。

[キーワード] シマサルナシ、連作障害、耐乾性

[担当部署] 苗木・花き部；苗木チーム

[連絡先] 0943-72-2243

[対象項目] 果樹

[専門項目] 栽培

[成果分類] 新技術

---

[背景・ねらい]

キウイフルーツ産地では、生産性の低下した弱樹勢樹の更新が、連作障害により計画的に実施できていない。さらに、近年では高温乾燥の影響による樹勢低下や若木の枯死が増加しており、生産力のさらなる低下が懸念される。そこで、改植ほ場において樹勢を維持できる耐乾性の高いキウイフルーツ台木として活用できる福岡県在来のシマサルナシを母本として選定し、その実生の台木としての特性を解明する。

(要望機関名：南筑後普 (H24) )

[成果の内容・特徴]

1. 改植ほ場において、福岡県在来シマサルナシを台木としたキウイフルーツ樹の枯死はみられない(表1)。
2. 福岡県在来シマサルナシ台木は、乾燥処理を施しても根活性が高く維持され、慣行台木より高い耐乾性を有する(図1)。
3. 改植ほ場における、福岡県在来シマサルナシ台木樹の累積収量は、慣行台木樹と比較して、初期成育が緩慢なため1樹当たりではやや少ないが、単位樹冠面積当たりでは同等以上である(図2、一部データ略)。
4. 台木の違いによる果実品質の差はみられない(データ略)。

[成果の活用面・留意点]

1. 改植ほ場における計画的な改植と、夏期の高温乾燥による樹勢低下が緩和することで、安定的なキウイフルーツ生産が可能となる。
2. 耐湿性は慣行台木と同程度であり、排水不良園や水田転換園に定植する場合は土壌改良など排水性の改善を徹底する。
3. 選定した県在来シマサルナシ母本の名称は、福岡県園芸振興推進会議キウイフルーツ専門委員会において「シマサルナシ福岡系統」と決定。

[具体的データ]

表1 改植ほ場における台木別の枯死数と枯死率（平成30年）

台木	供試数	枯死数	枯死率 (%)
シマサルナシ	7	0	0
慣行	7	4	57.1
有意差			*

- 注) 1. 穂木品種は「ヘイワード」、台木はすべて実生台木で各7実生を供試。  
 2. 枯死数は平成26年～30年にかけての累積数（平成25年栽植）。  
 3. 慣行は「ヘイワード」実生。  
 4. \*は $\chi^2$ 検定により、5%水準で有意差あり。

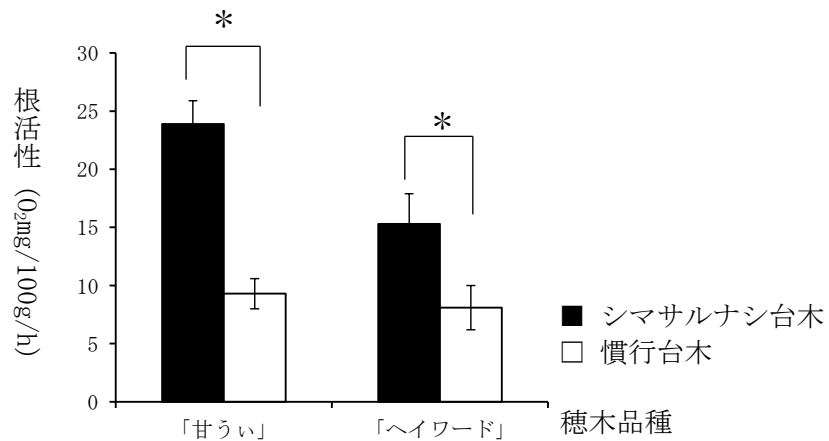


図1 乾燥処理が苗木の根活性に及ぼす影響（平成30年）

- 注) 1. ポット苗を4日間無かん水で栽培した後の根活性を調査。  
 2. \*はt検定により5%水準で有意差あり。

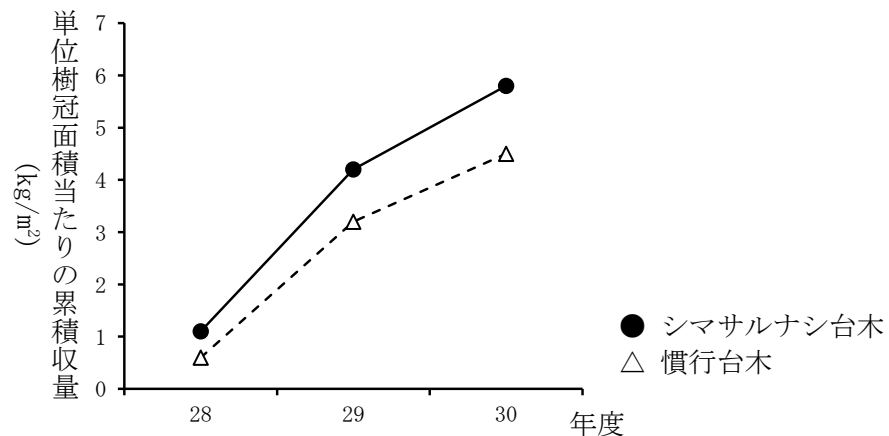


図2 台木の違いが単位樹冠面積あたりの収量に及ぼす影響

- 注) 1. 穂木品種は「ヘイワード」。  
 2. 結実開始3年目から5年目にかけての累積収量。  
 3. シマサルナシ台木樹は7樹、慣行台木樹は2樹調査。

[その他]

研究課題名：改植ほ場において樹勢を維持できるキウイフルーツ台木の選抜  
 予算区分：経常  
 研究期間：平成30年度（平成26年～30年）  
 研究担当者：四宮 亮、村本晃司、奥村 麗、松本和紀  
 発表論文等：農林業総合試験場研究報告第6号